

■男だぜ、ラインメンー夏に鍛える③

血の気の多い奴らー北星学園大

札幌の最高気温が24.2度まで上がった7月23日、札幌市厚別区大谷地の北星学園大グラウンドでは、暑さが和らぐのを待って午後4時45分から、アメフト部の練習が始まった。今年の北星学園大アメフト部は、新入生5人を含む選手16人の少数精鋭。講義の都合などもあってこの日の練習には選手10人が集まった。ポジション別に分かれるとオフェンスライン（OL）組はLB兼任の鈴木諒主将（4年、釧路江南高）ら3人だけ。練習メニューの説明の後、こぢんまりだが、気迫のこもった練習が始まった。

ダミータックルに続き、ボールキャリア役を交代で務めながらのブロックとタックルの練習。DLとLBも加わってラッシュを相手にしたブロック練習でたっぷり汗を流すと、今度はゴムチューブと地面に寝かせたダミーを使ってブロックの時の両足の動きを確認する練習。さらに、両腕の使い方も。「両腕に力を入れて相手の胸を持ち上げろ」「押すんじゃない、持ち上げろ」と檄を飛ばし合う。3人の練習だが、瞬発力と瞬発力がぶつかり合う。鈴木主将が所用で練習を離脱すると、入れ替わるように講義を終えたOLリーダーの佐々木魁（3年、室蘭栄高）が駆けつけた。

「セットアップドリル」と呼ぶ、パスプロテクションの練習が始まった。北星学園大にとり、パスはお家芸だ。コロナ禍前の最後の6校総当たりのリーグ戦となった2019年シーズンには、成績こそ2勝3敗の4位に終わったが、北海学園大とパスの投げ合いで大接戦を演じて、リーグ戦のリーディングレシーバーとリーディングパサーを輩出した。その伝統の武器を支えるのがOLのパスプロだ。パスプロのフォームで静止し、仲間たちが肩を押して腰の座り確かめる。DLの位置に合わせて細かくセットアップの位置を調整する。DL役とワンオンワンでパスプロの動きを繰り返す。3本ずつの交代だが「いいね」の声が飛んだ。

佐々木リーダーによると、今年のOLは4年生が168センチ、91キロの鈴木主将ら2人、3年生が172センチ、103キロの佐々木リーダーら2人、そして2年生2人の6人。残念ながら即戦力になる1年生はいなかった。

「6人はしんどい」と佐々木リーダー。スタミナ面に加え、「試合を通してぶつかり合うDLとの力関係でストレスを強いられることもある」という。そんな時に大切なのが「ヘルプ」。グラウンドの5人がパスプロテクションのほころびを補い合い、6人目もいざという時に備える。「ラインは5人で一つ。ポジションを共有することが大事」と佐々木リーダーがまとめた。

そんな北星学園大OLたちの自負は「血の気が多い」こと。相手ラインを破壊するDLのような気概を誇りに、佐々木リーダーが「ラインが一番カッコイイ」と宣言した。



池田伊織HCもボールキャリア役に入り、ブロックの練習をする
北星学園大のオフenseラインたち